

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル校名 山形県高島町立第二中学校)

【学校の概要(平成15年4月現在)】

高島町立第二中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	0	6	13
生徒数	56	61	63	0	180	

1 15年度当初の「総合的な学習の時間」の課題

- (1) 「総合的な学習の時間」が単なる体験活動に陥らないように、生徒の課題意識を高めるとともに、問題解決的な学習過程を仕組む。
- (2) 「総合的な学習の時間」と特別活動(学校行事)との関連を明確にする。
- (3) 「総合的な学習の時間」を支える「教科」の基礎的・基本的な学力の充実を図る。

2 モデル校としての目標設定

モデル地域としてのねらい「環境領域を切り口とした特色ある学校カリキュラムの整備」を受け、本校では、次のような目標設定をした。

- (1) 本校で行っている有機米栽培による稲作をはじめとする農業体験を、体験活動の中心にすえて、特色ある環境学習の展開を図る。
- (2) アクション(行動化)につながる総合的な学習の時間の展開を図る。
- (3) 地域や各種団体との連携を図る。
- (4) 学区内の屋代小学校と時沢小学校との小・中連携を図る。

3 平成15年度の実践及び成果と課題

- (1) 前年度の実践を振り返り、改善点を探り、全職員での校内研修会をもち、「総合的な学習の時間」の望ましいあり方を研究した。
- (2) 学区内小中学校の教務主任、総合的な学習推進担当者による情報交換の場を設け、小中連携のあり方をさぐった。

＜成果と課題＞

- (1) 「総合的な学習の時間」に生徒につけたい力を全職員で共有することで、生徒の確実な変容をめざす授業実践が見られるようになった。特に、環境領域の学習で、国語科と関連させた授業実践を展開することができた。
- (2) 学区内小中の実践内容の交流を図ることで、「総合的な学習の時間」につけたい力の関連性の検討や、次年度の授業交流の計画等、小中連携の第一歩を踏み出すことができた。
- (3) 全体計画の整備が急務である。そして、その計画に基づいて実践を行い、生徒の変容を評価し、実践を通して、全体計画をよりよいものに整備していく必要がある。また、授業実践交流を中心にした小中連携を推進していく必要がある。

4 平成16年度の実践

- (1) 環境領域を中心とした「総合的な学習の時間」のねらいを実現する授業実践を校内研究の中核にすえ、全職員で研究を推進する。
 - ① 体験的な学習や問題解決的な学習の推進
 - ② 個への支援の工夫改善
 - ③ 地域の人材や学習機関・学習環境等のより効果的な活用
 - ④ 各教科等における学習との関連を図った指導の工夫改善
- (2) 「総合的な学習の時間」における学区内小中学校の連携を推進する。
 - ① 小中を通してつけたい力の明確化とそれに基づいた授業実践交流の推進
 - ② 実践課題を受けてのよりよい小中連携のあり方の検討
- (3) 「総合的な学習の時間」の授業評価に基づいて、全体計画の改善を図る。
 - ① 目標や内容に基づき設定する評価の観点の工夫改善
 - ② 各教科・特別活動・道徳との関連の明確化

総合的な学習の時間「RINKAタイム」全体計画

高島町立第二中学校

学校教育目標

課題を持ち自ら学ぶ生徒 (希望)
 自らを律し心豊かな生徒 (自律)
 健康でたくましい生徒 (鍛錬)



育てたい力と心	「環境TLC」の目標	「TRY未来」の目標
問題発見・課題設定力	自分たちの住む地域環境に関心を持ち、問題を見つけ、環境を改善する課題を設定し、課題解決に向けての学習計画を作成することができる。	自己を見つめ、社会にふれる中で、自己の将来や職業への課題意識を持つことができる。
情報活用・表現力	資料を収集・活用し、他と関わりながらまとめたり、自分の考えを分かりやすく表現して相手に伝えることができる。	異世代、異なる立場の人と、自分の思いを伝えたり、心を通わせたりすることができる。
追求・実践力	課題解決のために最後まで追求したり、自分の生活を見直して環境にやさしい行動をとったり、新たな課題を見つけたりすることができる。	自ら社会とふれる活動に、最後まで取り組んだり、自らの課題解決に向けた実践に生かしたり、新たな課題を見つけたりすることができる。
関わり・思いやる心	他との交流や、環境にやさしい生活について考えることを通して、自分自身や相手を思いやる心を持つことができる。	異世代や異なる立場の人との交流を通して、自分自身や相手の立場を思いやる心をもつことができる。
自ら学ぼうとする心	各教科等で身に付けた力を実際に役立てることで、教科学習への意欲を高めることができる。	自己の将来の目標を考え、職業への意識を持つことで、教科学習への意欲を高めることができる。

小中連携の視点

連絡協議会の設置 ・二中学区として育てたい力の明確化とカリキュラムの検討
 ・授業公開並びに授業研究会の実施 ・生徒理解に基づく継続的な指導・支援